

2-O-1

大学を中退することの「意味」—学生相談場面から考える

永島 聡

文部科学省（2014）によると 2012 年度の大学中退者数および中退率は、79,311 名、2.65% であり、これらは増加傾向にある。また同年度における大学中退の理由としては、経済的理由（20.4%）、転学（15.4%）、学業不振（14.5%）、就職（13.4%）が上位に来ている（括弧内は中退者の中でそれぞれが占める割合）。ここで一般的に、いかに退学者を出さないようにするか、ということがテーマになってくる。例えば経済的問題に対しては、奨学金や授業料減免制度の充実等による経済的支援が行われ得る。また学業不振に対しては、リメディアル教育や初年次教育等による学力保障的プログラムの整備があろう。

しかし、中退はそれほど忌避すべきことなのか。防止しなければならない病でしかないのか。何らかの肯定的意味合いはないのであろうか。ここで、Frankl.V.E.による思想の枠組み、特に「次元的存在論」「人間観の三つの柱」「価値実現」の観点から、学生相談場面における中退のケースを再考してみる。物事を否定的にのみ捉えることはできない、人間は自由意志のもと意味を掴もうとする存在であること、何かに無意識的に専心する中で結果的に価値は実現されるということ、これらの枠組みから検討すると、当該学生の長い人生の一場面としての中退は、とても意味深いものでもあり得るということを確認できるのである。

2-O-2

地域連携室実習指導者の学習支援の構造

鵜飼知鶴
畑 吉節未

本研究は、地域連携実習での学生の学びと地域連携室実習指導者の学習支援の構造の 2 つの研究で構成されている。今回は、その中の地域連携実習での学生の学びを述べる。

研究目的：本学では、地域連携室実習しているがその学びの要因は明確でない。そこで、本研究は退院支援を実施している病院の地域連携室実習での学生の学びを明らかにすることを目的とする。

研究方法：研究対象は、平成 28 年度地域連携室実習を終え同意を得た学生 8 名。データ収集は半構造化面接法。分析は収集したデータを逐語録にし、学生の学びを抽出し意味内容の類似性からカテゴリー化を図った。本研究は、本大学研究倫理審査委員会の承認を得た。

結果：地域連携室実習での学生の学びは 3 つのカテゴリー【短時間で患者・家族の思いを引き出す信頼関係づくり】【患者・家族が望む退院後の生活に向けての支援】【多職種と効果的に連携した退院支援】であった。

考察：学生は、地域連携室の看護師は患者の退院後の生活を見据え、園田（2010）のいう病気のみならず焦点をあてるのではなく生命体や生活体の全体に着目し、身体と精神の相互作用も重視していると学んだ。また、学生は、地域連携室の看護師の患者との関係づくりを通して患者の可能性を信じ、患者の強みを引き出す関わりを行うためには患者を肯定的に捉えることが重要であることを再考することができたと考える。